

雪浦川における災害の歴史

雪浦川の流域では、昭和31年、昭和32年、昭和34年に梅雨前線や台風による浸水被害が相次いで発生しました。昭和51年には雪浦ダムが完成しましたが、その後、昭和57年に起こった長崎大水害では、雪浦ダムの機能を上回る雨となり、河口から奥浦橋にかけて甚大な被害となりました。

洪水浸水想定区域を見直しました

西日本で大きな被害となった平成30年7月豪雨をはじめ、特別警報が発表されるような大雨が近年続発しています。これまでは、長崎大水害による雨量を想定していましたが、今回、想定される最大規模の降雨を基に浸水想定区域の見直しをおこないました。

雪浦川で1,000年に一度と言われるような大雨がいつ降ってもおかしくありません。

これまでの想定



今回新しくなった想定



雪浦川の洪水浸水想定区域（計画規模）

- 流域全体に24時間総雨量 **381 mm**
 - ピーク時の1時間雨量 **141 mm**
- 昭和57年7月23日(長崎大水害)の雨量を基に設定。

雪浦川の洪水浸水想定区域（想定最大規模）

- 流域全体に24時間総雨量 **997 mm**
 - ピーク時の1時間雨量 **205 mm**
- 想定される最大規模の降雨を基に設定。

ちなみに、長崎大水害のとき、雪浦ダムの上流に位置する雪浦小学校 幸物分校では…

- 24時間総降水量 **422.5 mm** (7/23 13:00~7/24 12:00)
- ピーク時の1時間雨量 **177 mm** (7/23 19:00~20:00)

ハザードマップの使い方

防災対策の第一歩は、自分たちの地域でどのような災害が想定されているか知ることから始まります。このハザードマップを活用して地域や家族で「避難方法」や「危険な場所」などについて話し合い、予測の困難な自然災害に備えましょう。



ハザードマップが配布されたら、みなさんにお願いしたいこと

(1) どこが危険な場所か知る…………… P.7~14の地図

- ・自宅の周辺は、どのぐらいの浸水深が想定されていますか。
- ・家屋の倒壊するおそれがある区域に位置していますか。
- ・土砂災害のおそれがありますか。

(2) いつ避難するか知る…………… P.3~4

- ・避難のタイミングは、「警戒レベル」で伝えられます。
- ・積極的に最新情報を確認し、早めの避難に役立てましょう。

(3) どこに避難するか確認する…………… P.5~6

- ・浸水の状況によって、避難行動は異なります。
- ・洪水時の避難は、「立退き避難」が基本ですが、避難するとかえって危険な場合には、2階以上に避難することも有効です。
- ・ただし、家屋の倒壊するおそれがある区域では、早めの避難が必要です。

もっとハザードマップを活用するには…

実際に避難場所まで歩いてみる

避難場所に行く途中に、水路や急なガケなどの危険な箇所があるか確認しましょう。自宅から避難場所までの所要時間も計っておきましょう。



地域の防災訓練に参加する

大規模な災害が発生したときには、交通の遮断などで孤立することも考えられます。平常時から自主防災組織や地域の活動に参加し、災害に強いまちづくりに取り組みましょう。



ほかのハザードマップも確認する

西海市では洪水ハザードマップ以外にも、「地域別防災ハザードマップ(土砂災害・津波災害)」を作成しています。お手元がない場合は、西海市ウェブサイトを確認できます。

